

## 会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (3)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第5回産学連携推進員育成講座開発委員会
開催日時	令和8年1月14日(水) 15:00~17:00
場所	ビジョンセンター西新宿
出席者	委員：柳田 祐大、森川 和哉、三村 隆男、伊藤 政幸、 石田 哲也、林 透(OL)、土井 宏美(OL) 久代 英俊(OL) 計6名 請負業者：飯塚 正成 計1名 オブザーバー：岡村 慎一 計1名 合計8名
議題等	<p>1. 開会</p> <p>柳田より、本年度最終回となる産学連携推進委員会の開会が宣言された。オンライン参加者の音声確認を行い、問題ないことを確認したうえで、委員長は「本日は年度総括となる重要な会議であり、成果物最終確認・年度報告書および三ヵ年まとめ・今後の講座展開の方向性という大きく三点について議論したい」と述べ、会議の進行方針を共有した。</p> <p>2. 議題1：成果物（リーダー育成講座）最終確認</p> <p>柳田委員長が、11月に実施した研修結果をふまえ、「産学連携推進リーダー育成講座」最終版パッケージの全体構成について説明した。</p> <p>内容は以下の8点で構成されると報告された：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修ツール一覧（講師用3点・受講者用4点）</li> <li>2. リーダー研修設計（Excel）</li> <li>3. 進行スライド（1日目・2日目）</li> <li>4. 1日目ワークデータ（共同編集型）</li> </ol>

5. 2日目個人ワークシート
6. スキルアップ研修設計（昨年度開発の基礎研修）との対応表
7. 研修実施計画チェックリスト
8. 理解度チェック（1枚もの+参考アンケート）」

スライドには講師用ノートが充実しており、受講者への説明ポイント、注意事項、スライドを使用しない場面の指示まで盛り込み、オンライン実施にも対応した設計になっていることが説明された。

委員長は、今回のリーダー研修は「昨年度開発した基礎編（産学連携推進育成講座）を受講済みである前提」で設計されている点を改めて強調した

また、対象者について、「新任職員や経験の浅い教員にはやや難度が高く、管理職や一定の実務経験者を主対象とする“応用編”に位置付く」との見解を述べた。

#### ● 参加委員からの意見・質問

委員から質問等はなく、成果物についての合意が得られた。

#### ● 納品方法

柳田委員長より、Google ドライブ上にすでに格納されているデータを正式納品物として扱うことを確認。再度のデータ送付は不要とし、委員会からの吸い上げ方式を進めることで木根氏と合意した

### 3. 議題2：年度報告書について

柳田委員長より、Slack にリンクを共有済みの「産学連携推進リーダー育成講座 実施報告書（約43ページ）」について説明があった。

内容は以下で構成：

- 実施概要
- 実施スケジュール
- 当日スライド
- 受講者アンケートの分析
- まとめ

本報告書については委員長一任で最終調整を行い、そのまま提出とすることが確認された。

#### 4. 議題3：三ヵ年まとめの作成

柳田委員長より、令和5年度～7年度の三ヵ年事業を総括する文書の第一次版を提示。現段階では150ページ程度だが、最終的には50～60ページ規模に圧縮し、教材部分は除外する方針を説明した。

三ヵ年まとめの最終稿は週内に委員会チャンネルへ投稿し、委員全員が内容を確認のうえ、Slack上で「承認（グッドボタン等）」を示す方式で最終決定することが共有された。

#### 5. 議題4：YouTube向け事業成果報告動画の作成

柳田委員長より、毎年度作成しているYouTube報告動画について、今年度も音声付きスライド動画を作成し、委員会チャンネルへ投稿後、承認を得てYouTubeに公開する予定が共有された。

再生数が伸び悩んでいるため、委員へ積極的な視聴・拡散協力も依頼された。

動画作成についても委員長一任とすることが確認された。

#### 6. 議題5：今後の展開（講座の普及と運用）

##### ● 柳田委員長より問題提起

柳田委員長は、「講座を作って終わりではなく、どう普及させるかが最大の課題」と述べ、以下の観点を提示した：

- 地方校やリソース不足校でも参加可能となるオンライン実施環境の整備
- 全専研が進めるLMS（e-learning）への搭載可能性
- リーダー研修は難度が高く、オンラインのみでは難しい可能性があるため、必要に応じたハイブリッド型実施や、外部講師の活用を検討

● LMSに関する現状共有

事務局飯塚から、全専研 LMS の現状として以下の課題が指摘された：

- 運用ポリシーが未確立（教員評価との連動、学習履歴の扱いなど）
- セキュリティ・回線安定性の不安
- 課金体系未定（会員・非会員の扱い）
- コンテンツ維持には毎年のメンテナンス費が必要
- トラブル対応窓口など、運用体制が整備されていない

そのため、委員会レベルで判断するのではなく、統括委員会および理事会レベルで扱うべきとの意見が共有された。

柳田委員長はこれを受け、2月の統括委員会で成果物を正式に提示し、普及方針や運用方法の議題化を依頼する方針を表明した。

---

7. 自由討議・委員コメント

委員長より「最後なので一人ずつコメントを」と呼びかけ、各委員が以下のような所感を述べた（要旨）。

● 伊藤委員

- 全専研の事業に初めて関わったが大変貴重な経験だった
- 今後成果物がどのように展開されるか楽しみにしている

● 久代委員

- 今年度からの参加で勝手が分からない部分も多かったが、有意義だった
- 今後はより積極的に関わりたい

● 石田委員

- 文科省事業では成果物の普及と継続が重要
- 関係者が横のつながりを持てる場の維持が必要

● 土井委員

- 初年度から参加し、現場ヒアリングなどで大きな学びがあった

	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特に地方校の課題（企業数・人員不足など）に触れられたことが収穫</li></ul> <p>● <b>三村委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 高校・大学双方の立場から見て、産学連携はキャリア教育の核</li><li>• 本講座が現場で実装されることに期待している</li></ul> <p>(上記はいずれもファイル後半の各発言に基づき整理)</p>
	<p><b>8. 閉会</b></p> <p>柳田委員長より、「本日をもって産学連携推進委員会は終了となる。三年間にわたり協力いただいた委員に深く感謝する」と述べ、委員会の正式な閉会が宣言された。</p>